



糸数善昭 小波津伝統芸能保存会 会長

小波津区は伝統芸能が盛んな区ですが、近年、その後継者不足に悩んできました。そこで伝統芸能保存会を発足し、後継者育成に乗り出しました。

糸数善昭さん

小波津は古い村落で、由緒ある伝統行事が多数残っています。年中行事として、旧暦六月には、十五日のウマチー綱と二十五日のウハチ綱の二回の綱曳きがあり、古くから伝承されている棒術も演じられています。

また、旧暦八月には、毎年、厄祓いとして古くから伝承されています獅子舞と



特集

伝統を受け継ぐ

西原には各地域に数々の伝統文化や芸能がありますが、近年、その後継者不足に悩む自治会がでてきました。しかし、その一方で、伝統芸能や年中行事を復活させたり、活性化のために取り入れる自治会もあります。

今日は、伝統文化や芸能が受け継がれていくようすを探ってみました。

伝統を守るため保存会結成

〈小波津区〉

七年おき（マール）に開催される「ムラアシビ」という部落あげでの豊年祝いが行われます。ムラアシビでは、小波津に伝わる舞踊や狂言、組踊り、獅子舞が行われています。

昨今、後継者不足という課題に頭を悩ませていました。そこで、平成十四年五月に伝統芸能保存会を結成して伝統芸能の振興に努めています。

獅子舞については、これまで町の行事や県外での文化交流、外国との文化交流などを行うことで獅子舞の技能を高めた。その後継者の育成に努めてきました。しかし多くの先輩方から「獅子は部落の守り神であり部落から持ち出すのは、できるだけひかえてほしい」と強い意見があります。このことで今後、獅子舞を演じる機会が少なくなることが予想され、獅子舞を通しての文化交流や獅子舞の技能継承が厳しくなることが心配されました。

そこで、部落から持ち出してよい新たな獅子の購入を計画していました。幸い小波津出身の（故）小波津正雄さんが制作した獅子を譲りたいという方がいて、獅子の購入について区で承認が得られたので、獅子を購入しました。



小波津が新しく購入した獅子（故 小波津正雄さん作）

新しく購入した獅子は、町内外の県内行事や県外・国外での文化交流など多くの機会でも演舞し、獅子舞演技の研鑽と若手後継者の育成に活用していきたいと考えています。

広報／他の区でも伝統芸能の後継者育成が課題になっていますね。

旧部落では歴史のある伝統芸能があるのに誰かがやるだろうと思って誰もいないような状況があります。

保存会を発足しようとしたのは、誰かが仕掛けないと、いつまでも何もできないということを感じたからです。伝統芸能は一度途絶えると、復活させるのが大変なんです。

私には「アイデア」があつて、町の獅子舞大会をやってみたらどうかと思うんです。町内には九つの区に獅子があるんですが、それぞれ舞い型が違うので、一同に集まって披露する型によって他の区の活動状況もわかるし、自分たちももつとがんばろうという気運も高まってくるんじゃないでしょうか。